

1 題材名 式をつくろう

2 題材について

本校の低学年で行われているサークル対話で子どもから語られる話題は、旅行に行った時の思い出や登下校の途中で見つけたこと、日頃思っていることなど多岐にわたる。そして、語り手の思いに寄り添い文脈に即しながら、一つ一つの言葉の意味を子どもは考えていく。話題の中には、他の教科につながるものもあり、「今話していることは、算数になるよね」と子どもが発言することもある。サークル対話の時間だけで終わらせるのではなく、教科の学習としてつなげていくことで、学びの連続性が生まれると言えよう。語られた話題を算数として意識することは、「自分事の算数」へとつながる一つの契機となろう。そして、「算数になるよね」という思いが、「どのような算数につながるのだろうか?」という思いへと変わっていくことを大切にしたい。

本題材では、「どのような式を作ることができるだろうか?」につながる話題⁽ⁱ⁾を用いることにする。子どもは、初めに話題の中で書かれている言葉や文、数値を選ぶ。つぎに、そこから式を作り、その式になるように問題文を作る。この一連の流れは、具体的な場面を算数と関係づける学びであり、「自分事の算数」の一つの視点であると考えられる。また、選んだものから形式的に式や問題文を作るだけでなく、それらの是非を考えることもまた大切である。考える方法として、例えば、作った式や問題文を他者と見合うことをしかけていきたい。その際、話題に立ち返って、お互いの見方を知ることが求められよう。そこでは、題材にある言葉を丁寧に扱うことが大切である。また、文章で書かれた話題を、図に表す子どももいるだろう。このように、具体的な場面と式、問題文、図などの関係を考える活動は、学習指導要領の式の指導においても述べられていることであり、本時でも大切にしたい。

3 学習指導計画(2時間目/全3時間)

- 第1次 話を読み、式と問題文を作る … 1時間
- 第2次 作った式と問題文を検討する … 1時間(本時)
- 第3次 式と問題文を作り直す … 1時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

作った式と問題文の是非を、他者と関わりながら、題材となる文章に立ち返ったり、図で表したりするなどの方法で考えることができる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 選んだ言葉や文から作った式と問題文を、友だちと交換する。 <input type="checkbox"/> どの計算が使われているか確かめる。 <input type="checkbox"/> 作った式になるような問題文になっているか確かめる。 <input type="checkbox"/> 話題に立ち返って、式や問題文を確かめる。	<input type="checkbox"/> 使われている数だけを正確に把握させる。 <input type="checkbox"/> 必要に応じて、図をかかせる。 <input type="checkbox"/> 単位にも注意させる。 <input type="checkbox"/> 文章をていねいに読み取らせる。
2. 全体でいくつかの式を検討する。 <input type="checkbox"/> 問題文の表現を直してみる。 <input type="checkbox"/> 他の式では表せないか考えてみる。	<input type="checkbox"/> 問題文としてより適切な表現となるように、言葉をていねいに使わせる。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

題材とそこから作り出される式と問題文との関係を見ていく子どもの学びの姿について

(i) 参考資料『わくわく算数2下』啓林館